

Rotary



世界に希望を生み出そう

CREATE HOPE in the WORLD



国際ロータリー 第2550地区

宇都宮東ロータリークラブ会報

<http://www.ri2550uerc.gr.jp/>

会 長 石川 元信

幹 事 谷田部 修

会報・雑誌委員長 田崎 信孝

例会場 宇都宮市大通り2-4-6 ホテルニューイタヤ

例会日 毎週火曜日(12:30~)

事務局 ホテルニューイタヤ内 宇都宮東ロータリークラブ TEL.028-638-5125 FAX:5128

通算3021号 2023年10月31日(晴れ) 第17回例会 会員数105名

夜間例会

点 鐘 石川(元) 会長
司 会 副SAA 杉本会員

◇ロータリーソング「それでこそロータリー」

◇本日のディナー スペシャルディナー



ビジター紹介 小林(正) 副会長

◇米山記念奨学生

ラグワスレン, アマルサナー君



会長挨拶 石川(元) 会長

皆様、こんばんは。辞典で「今日の何の日」を見ましたところ、今日は「ガスの記念日」とのことです。明治5年、新暦の10月31日に横浜の馬車道にガス灯がひかれ、100周年の昭和47年に「ガス記念日」としたそうです。ガス灯が出来て、当時の人は本当にびっくりしたと思います。明るくなると、今迄見えなかったいろいろなところが見えてきます。ここから少し仏教的な話になりますが、蓮如上人の、人の悪きところはよく見えるなり…、という言葉があります。人の悪いところはよく見える。しかしながら、自分のことはよく見えない、ということです。ある人が言ったことで、人差し指で「おまえは」と、相手を指さして批判するけれど、残りの3本指は自分を向いている。自分のことも批判しているんだ、という話があります。人の良いところをよくみる、なるべくなら、人の良いところを見ていければいいなと思うしだいです。段々日が短くなってきて、一年が終わろうとしています。自分なりに反省するところが沢山ありますので、もっと、己の足元を見ていきたいと思っている今日この頃です。今日は皆様ご歓談の程よろしくお願い致します。

◇奨学金の授与

米山記念奨学生

ラグワスレン, アマルサナー君



幹事報告

谷田部(修) 幹事

◇菊地憲壽会員のご令室、優子様が10月29日、ご逝去されました。ご葬儀の日程は、通夜11月3日午後5時より、葬儀11月4日午後0時30分より、栃の葉東峰ホールにて、仏式で執り行われます

◇レターBOXに米山記念奨学事業豆辞典配付。



卓 話

米山記念奨学生 「近況報告」

米山記念奨学生

ラグワスレン, アマルサナー君



皆さん、こんばんは。自治医科大学脳神経外科4年の大学院生です。世話クラブは宇都宮東ロータリークラブ、サブ世話クラブは下野上三川ロータリークラブです。本日は自己紹介、モンゴルの紹介、米山奨学生の生活についてお話いたします。

— パワーポイントにて説明 —

1. 自己紹介

出身はモンゴル、ニックネームはアマラです。妻と息子と日本に住んでいます。趣味はバスケットボールをすること、映画を観ること、旅行等です。2012年にモンゴル国立医科大学を卒業後、

2年間、モンゴル国立医科大学神経科医を専攻し、2015年～18年までモンゴル第2総合病院で神経科医として勤務しました。2019年から1年間、自治医科大学脳神経外科部門の研究生で、2020年から自治医科大学脳神経外科部門の大学院生になりました。大学では、人間の脳の深層領域における認知機能を研究しています。

2. モンゴルの紹介

TBSのテレビで『VIVANT』を見た方がいると思いますが、日本とモンゴルで撮影されました。モンゴルはロシアと中国、非常に大きな二つの隣国に囲まれています。正式な国名はモンゴル国、首都はウランバートル、面積は約156万km²、人口約335万人、人種はモンゴル人及びカザフ人等、言語はモンゴル語です。国土の80%が草原で、まさに、「草原の国」です。モンゴルの生活は時代とともに変化していますが、遊牧民の生活はまだ残っています。今年7月に自治医科大学脳神経外科等の先生達とモンゴルに行って参りました。この時、モンゴルの脳神経外科の先生達とも交流し、てんかん患者の手術を行いました。モンゴルの遊牧民の生活も紹介しました。首都のウランバートルには、国民総人口の約半数にあたる150万人がいます。人口の6割は若者が占める非常に活気あふれる街です。遊牧民の家はゲルと呼ばれるものです。毎年自治医科大学で開催される「薬師（クスシサイ）」にモンゴルの学生が参加し、自分たちの文化を紹介するためにモンゴルの伝統的な家をたてます。組み立て時間は約2時間です。遊牧民の人達にとっては非常に便利な家です。薬師祭では伝統的な2つのゲームも紹介しました。モンゴルの大切な家畜として、ウシ、ウマ、ラクダ、ヒツジ、ヤギの5種類の家畜がいます。『VIVANT』でゴビ砂漠が出ましたが、南部はゴビ砂漠が広がり、北部にはタイガと呼ばれる針葉樹林帯が広がっています。日本と同じように四季があります。1月はマイナス30～40℃になることもあります。皆さんが来るなら紹介したいのは7月です。モンゴルの料理は伝統的に「赤い食べ物」と呼ばれる肉料理と「白い食べ物」と呼ばれる乳製品に大別されます。伝統的な遊牧生活において前者は冬季、後者は夏季の食べ物です。7月に来た先生達ともモンゴルの料理を食べました。昔から祝って来た祭典の一つはナーダムの祭りです。モンゴルを代表する3競技「競馬」「相撲」「弓」の技術を競うのがナーダムです。

3. 米山奨学生の生活

昨年の4月から米山記念奨学生となりました。米山奨学生として毎月1回、世話クラブの例会に出席し、その時は、自分の近況を報告しています。最初の例会はとても緊張いたしました。毎月の例会に参加させて頂くことで、クラブや外部者の方々のいろいろなスピーチを聞いて、様々なことを学ばせて頂きました。クラブの行事や活動などに招待されて、いろいろな角度から日本の文化を学ぶことができ、大学や研究などで得られない新しい経験に感動しています。世話クラブとサブクラブの皆様は私や家族が大変お世話になっており、非常に感謝しております。米山奨学生になったことで、私の家族にとっても日本の文化やロータリーの奉仕を学ぶ良い経験ができました。また、他の国の奨学生と出会い友達になりました。毎月1回、学友会の皆さんが集まって、日本の生活や自分の国について話を聞かせていただきます。色々な国の文化を学ぶことができました。米山奨学生、米山学友会、地区米山委員会の皆様とロータリーのいろいろな活動に参加できて、嬉しく感じています。他にも、地域の清掃ボランティア活動にも参加しました。

モンゴルにも米山学友会があります。会長のUdvalさんは私の先輩でもあります。米山学友会ではいろいろな活動をしています。最近では、モンゴルの図書室プロジェクトをしています。ウランバートル市で学ぶ子供と田舎で学ぶ子供との教育環境は大きな格差があります。田舎に住んでいる子供たちのために図書館をつくらうとしています。こちらは田舎の古い学校ですが、日本の幾つかのロータリークラブとモンゴルのロータリークラブで協力して、新しい図書館をつくりました。次の学校の図書室プロジェクトの責任者が下野上三川ロータリークラブの例会に出席しました。

米山奨学生になる前の生活と比べて、奨学生になってから、様々な人と出会いや色々なことを学ぶ機会を頂きました。日本に来て学んだ多くの経験は、将来的にきっと役に立つと思います。米山奨学生になれて本当によかったと思います。これからも両国との架け橋になれるように一生懸命頑張りたいと思います。

乾杯 辻 裕司パスト会長

今夜も胸襟を開いて賑やかにいきましょう。
乾杯！